

第9回 湖西市職住近接・未来ビジョンアドバイザリーボード 会議議事録

開催日時：令和6年2月9日（金）15時00分～16時45分

会 場：湖西市役所 市長公室

テ ー マ：日本再生のリジェネラティブモデルを地方都市湖西市で見せる

発言者	発言内容
平松政策参与	<ul style="list-style-type: none">・バッテリーパーク、バッテリーロード、工場の誘致で成功はしているが、職住近接を成し遂げるためには、さらにソフト系サービス産業の誘致、非製造業雇用機会の増加、インバウンドの増加、世代間交流、企業の人材確保、それにつながる大学との連携も重要となる。・そのために市は、サステナビリティ、レジリエンス、公衆衛生、ウェルビーイング、包摂的社会などをきちんとした方針のもと実行し、それを見せていかなければならない。・見づらい価値を可視化する軸として、国際認証である LEED 評価を使う企業や自治体が増えている。・職住近接の「職」の問題として、自動車部品製造一辺倒からの転換、リモート・サテライトオフィス需要の増大など、歴史的な大転換期にある。・職住近接の「住」の問題として、エリア全体が歩きやすく徒歩圏内で生活の用が足り、車や電車を必要としない生活様式に変化していくと考えられる。企業も屋外のサステナビリティを考慮した拠点選びをする。湖西市は、豊かな自然を活用することで活路が拓けると思う。公共交通に近く、安価に住める(アフォーダブル)住宅整備が大事である。・企業の2拠点目の受け皿になるためには、①カーボンニュートラル、②多用途の集積、③緑地・公園の再整備、④歩行者・自転車優先の都市動線、⑤自然遺産へのアクセス、を整えることが重要となる。・将来的な価値を生むために、世界的なサステナビリティ認証である LEED 認証を取得するための検討を、次年度から湖西市で始める。世界的に自然や気候変動への取組が必須である中、豊かな自然は湖西市として有力なアセットとなる。・150～160年前から自然循環、自然に基づいた課題解決に取り組んでいたオームステッドが注目され始めている。セントラルパークやハイライン、ガスワークスパーク、タイムズスクエアなど、きちんと管理・整備されることで街全体が生まれ変わっている。・令和4年度に湖西市の職員と、都市デザインや浜名湖の利活用、新生活・就業スタイル、産業文化振興をテーマに勉強会で議論し、提案を行った。・個人的に進めるのは限界があるので制度的にやれると良い。そのためには、作る際のデザイン・コンセプト、メンテナンス方針、経営の視点が重要であり、社会・コミュニティと一緒にやってやるのが大事である。独自財源を持って経営できる中間支援組織が肝となる。

<p>菊地委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 6 年度予算は、平松政策参与や市の職員の考えが活かされてきている。まちづくりにも地域の人を中心にした資源が活かされていると分かった。 ・中間的な支援組織、公的ではない柔軟に動ける団体が主体的に自主財源で活動していくと良いというのは確かにそう思う。小さい都市ほど危機意識も強く、動きが迅速で、首長のリーダーシップ次第で劇的に動く側面がある。 ・移住・定住において、行政と地域の考えが違うところもあり、うまくコーディネートしてくれる中間組織があるとよりニーズに合った対応が可能になる。
<p>平松政策参与</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・若者と女性の声を聞くことが大事。湖西は古い社会風土が残っているので、それを変えるためには若者と女性が楽しく取り組んで成功しているのを見せるのが良い。 ・若者を呼び込むには大学のまちづくり系の研究室などがまちづくり経営主体に関わってくれれば良い。湖西市をテストサイトとして想定している大学もある。
<p>井上委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・豊橋技科大では、浅野先生が都市計画をやっている。豊川稲荷の商店街活性化に関わった先生もいた。 ・飯田市では、大学の誘致はできないが、研究室の誘致で補助をしている。浅野先生が飯田市で毎年ワークショップをしているので、湖西でもできたら良い。 ・昔は何か大きなモノを作ればよかったが、小さなモノをいくつか点在させてそれを結ぶネットワークをうまく作れたら面白いのでは。徒歩と自転車で済む街ができれば魅力的になる。ロードレースで都市をアピールしているところもあり、自転車道を整備してくれると嬉しい。
<p>土居委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・民間主導で進むと良いが、担い手や資金をどこから持ってくるか。寄附文化がない日本では、ある程度行政も関わらないとまわらない。 ・土地開発公社は、財団法人なので市直轄ではなく市は出資者。市の事業として進めるよりは、市民と一緒にインフラ整備、再整備などで使える道具になるのでは。 ・女性と若者の知恵を活用しなければ活路は開けない。アクティブに動ける若者・女性が新しい時代を切り開いていく。 ・都会の学生を呼び込めれば、地域は活性化できるのでは。いろんな大学に呼びかけて知識を持ちながら発揮できない若者に、インターンよりも自由度がある活躍の場を提供してみてもどうか。
<p>野村委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・LEED 認証は、なぜ、誰を対象に、何を目的に、誰がやるのか、消化しきれないところがある。 ・外部の人、大学生を呼んで、関わってくれている間は素敵な状態になると思うが、実際住んでいる人を置いてきぼりにしては継続していけない。そこを見据えてご縁づくりをしていただきたい。 ・広く一般に理解してもらうためには、外国語を日本語に落とし込む努力は必要。 ・事業を進める上で一番必要なのは「聞くこと」。 ・明石市の取組を他の市でできるのか、できないのか、一回本当に考えてみては。子育て施策を進めることで街全体が変わっていった。制度を作ったら、その制度を使うのは市民の責任でもある。

<p>平松政策参与</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の勉強会でアンケートを取ったが、市に友達を呼びたいと思う若手職員は4割程度であり、住んでいる街へのプライドがあまりないことが明らかになった。浜名湖で遊んだことのない人も多い。地元の人だけで解決できるならいいが、新鮮な目を持つ人を含め、双方で話し合った方がよい。 ・誰のためかと言えば、次の10～20年後に社会の中心となって住んでいる地元の人、新しく入ってくる人のための事業であると想定している。 ・外国語を（概念が定着していない）日本語にするのは難しい。課題であることは同様に認識している。ただ、耳障りは良いが中途半端な日本語を安易に使うと、全く違うものをイメージさせることがある。
<p>大倉委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サステナブルというのは、その言葉がある前からあった感覚。それをSDGsとして見せないと地球がなくなってしまうと分からないのかと考えている。 ・ウェルビーイングとは何かというと、一人ひとりの幸せが実現されていることであると思う。それを市民が実感できる政策・取組でないといけない。 ・子育て環境・教育面を重視して移住を考える人も増えている。子どものウェルビーイングが家庭のウェルビーイングとなる。 ・未来に向けた良い取組なので、関わる人をどうやって増やすか、子育て世代を置いていかないためにどうしたらよいかを考える必要がある。
<p>佐原委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分は子どもの頃から浜名湖で遊んでいて、すごく恵まれた環境であった。東京の友人が子どもに自然に触れさせたくて遊びに来るが、昔に比べると浜名湖で遊ぶ人は減っている。 ・47都道府県いろいろな街を見て思うが、開発にコンセプトがあると分かりやすく良い。費用をかけずに100年後でも誇れる何かができることが良い。 ・街を作る時にはメンテナンスのことも考えながら、あまり詰め込み過ぎないことも大切。小さい街で何を活かすのか。誰のためにと考えると継続していけることが大事で、20～30年後の人が喜ぶ街づくりのためには若者と女性の声を聞かないといけない。